

## 著 書

1. Physical Therapy for Parkinson Disease-パーキンソン病と理学療法- (共著) , アイペック, 2008.
2. Physical Therapy for Shoulder Disorders-肩関節疾患と理学療法- (共著) , アイペック, 2009.
3. The Real Physical Therapy-理学療法の現場から (共著) , アイペック, 2010.
4. 脳卒中運動学 (共著) , 運動と医学の出版社, 2021.
5. Self Training Based on Motion Analysis-動作分析から考える自主トレーニング- (共著) , 編集工房ソシエタス, 2021.
6. 運動器疾患を学ぶ-評価から理学療法の実践まで- (共著) , 編集工房ソシエタス, 2022.

## 論 文

1. 藤原 聡・他: 左腰背筋の持続的な筋活動により歩行時に腰痛が出現した一症例. 関西理学 7: 149-153, 2007.
2. 周期的な聴覚刺激における刺激回数の増加と刺激頻度の相違が筋電図反応時間の変化に及ぼす影響-一側足関節背屈運動における検討-. 関西理学 9: 77-81, 2009.
3. 周期性の認識に基づく効率的な運動中に定期的に呈示される異なる刺激間隔が筋電図反応時間に及ぼす影響-刺激回数の増加と刺激間隔の相違による検討-. 関西理学 10: 71-76, 2010.
4. 藤原 聡・他: 運動学に基づいた徒手筋力検査における臨床的評価法. 関西理学 21: 66-73, 2021.

## 学会発表

1. 左腰背筋の持続的な筋活動により歩行時に腰痛が出現した一症例 第 6 回関西理学療法学会症例研究学術大会 (2006, 兵庫)
2. 周期的な聴覚刺激における刺激回数の増加と刺激頻度の相違が筋電図反応時間の変化に及ぼす影響 第 43 回日本理学療法学術大会 (2008, 福岡)
3. 周期的な聴覚刺激に対する一側足関節運動と両側足関節交互運動が筋電図反応時間に及ぼす影響 第 48 回近畿理学療法学術大会 (2008, 大阪)
4. 周期的な聴覚刺激に対する筋電図反応時間における一側足関節運動と両側足関節交互運動の相違 第 44 回日本理学療法学術大会 (2009, 東京)
5. 一定間隔の聴覚刺激に基づく運動中に挿入される異なる刺激間隔が周期運動の遂行に及ぼす影響-筋電図反応時間による検討- 第 45 回日本理学療法学術大会 (2010, 岐阜)
6. 周期性の認識に基づく効率的な運動中に呈示される異なる刺激間隔が筋電図反応時間に及ぼす影響-刺激間隔の相違による検討- 第 46 回日本理学療法学術大会 (2011, 宮崎)
7. 周期性の認識に基づく効率的な運動中に定期的に呈示される異なる刺激間隔が筋電図反応時間に及ぼす影響-刺激回数の増加による検討- 第 51 回近畿理学療法学術大会

(2011, 滋賀)

## 研究業績

関西理学療法学会 平成 22 年度助成研究

「周期性の認識に基づく効率的な運動中に定期的に呈示される異なる刺激間隔が筋電図反応時間に及ぼす影響 —刺激回数の増加と刺激間隔の相違による検討—

研究代表者 藤原 聡

## 講演

大阪府社会保険協会「メタボリックシンドローム予防教室」(2007, 大阪)

横尾老人クラブ「グリーンと踏ん張って体力アップ」(2020, 兵庫)

横尾老人クラブ「今日からできるスロートレーニング！～体力測定でいい結果を出そう～」  
(2021, 兵庫)